

令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（指導について）

指導者 Dグループ 福山市立山南小学校 齋藤 萌子
指導学年 第2学年1組 13名

1 単元名及び教材名

こんなときにあったらいいな！助けてくれるロボットをしょうかいしよう！
「ロボット」（光村図書 「こくご二下 赤とんぼ」）

2 児童観

本学級の児童は、本単元までに学習した説明的な文章「たんぽぽのちえ」や「どうぶつ園のじゅうい」を読む単元において、時間的な順序を表す言葉を押さえながら学習を進めてきた。また、「どうぶつ園のじゅうい」の学習では、時間的な順序を考えながら内容の大体を捉えるとともに、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、感想をもつことをねらった学習をしてきている。獣医の仕事と、自身が経験、体験したことのある治療と結び付けながら学習を進め、感想をもつことができる児童が増えた。学習を進めている間にも、自分の知識や経験を想起してつぶやいている児童も7割程度おり、文章の内容に対して実感を伴った理解ができつつある段階である。ここから、文章の内容に対する思いをまとめる学習は未経験であるため、児童のつぶやきを生かしながら感想をもたせる必要がある。

しかし、事前にアンケートを実施したところ「国語の学習が好きだ」と答える児童は31%で、国語に対して否定的感情をもつ児童が多い。いいえと回答した児童の国語が苦手を感じる理由は、全員「文章を書くのが苦手」であった。今単元でも、感想をもち文章にしてまとめていくため、子どもたちがどのような部分に苦手を感じているのかを踏まえ、具体的な支援を考えていかなければならない。

3 指導観

指導に当たっては、児童が意欲的に学習に取り組みながら教材文の内容理解ができるように、単元名を「こんなときにあったらいいな！おたすけロボットを紹介しよう」とし、文章の内容と自分の体験とを結び付け、「こんなロボットがあったらいいだろうな。」という文章の内容に対する思いを紹介し合う言語活動を設定する。

単元の導入では、教材文にはないペットのかわりになるロボットの動画を見せることで、教材文に興味関心を向かせる。そこから教材文にはどのようなロボットが紹介されているのか、自分の経験や体験と結び付けながら読み進める。

初めに問いが2つあり、「どのようなロボットなのか」「どんなときに助けてくれるのか」という問いに対しての答えを文章中の語や文を捉えて読み進めながら、自身の経験や体験との類似点をメモしたり振り返ったりしながら読む。

文を書いたり読んだりすることに苦手意識をもつ児童が多いため、文章だけでなく写真や動画などの具体物を用意し、文章の内容を想起しやすくし、写真で見つけたことを叙述と結び付け、重要な語や文に気付くことができるようにしながら進めていく。

また、図書館補助員と連携し、ロボットについて書かれている図書を学習前から準備し、並行読書を充実させる。そうすることで、終末の言語活動への見通しをもたせる。

4 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ <u>評価方法</u> 等
一	1・2	○単元のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。 ○全文を読んで、分かったことや思ったことを出し合う。				

二

3	○文章の全体を読み、文章構成をつかむ。（5段落構成、問いの数、3つの事例）																											
4 5 7	○それぞれのロボット（事例）に対する問いの答え「どんなロボットか」「どんなときに助けてくれるのか」と、「何ができるのか」の答えを見付け、ワークシートやノートにまとめる。（4～6時） ○5段落の役割について考え、文章構成を整理する。（7時） <table><tr><td>どんな時に助けてくれる？</td><td>何ができる？</td><td>どんなロボット？</td><td>2段落</td></tr><tr><td>とどける人が足りないときでも、にもつをうけることができる。</td><td>ひとりですらうろをはしつて、人の家までにもつをは「かこ」。</td><td>にもつを家にとどけてくれるもの（ロボット）</td><td></td></tr></table> <table><tr><td>どんな時に助けてくれる？</td><td>何ができる？</td><td>どんなロボット？</td><td>3段落</td></tr><tr><td>知りたいことがあるときに、すぐにしつもんすることができ。</td><td>人のしつもんを聞いて、答えたり、道案内をしたりすること。</td><td>水ぞくかんのようなしせつで、あんないをしてくれるロボット</td><td></td></tr></table> <table><tr><td>どんな時に助けてくれる？</td><td>何ができる？</td><td>どんなロボット？</td><td>4段落</td></tr><tr><td>あぶないばしよに近づけないときに、ロボットがとっしやしんやどうがを見て、ようすを知ることができ。</td><td>ほかのものにつかないようにしながら、きめられはしよまでとんでいくこと、棒についているカメラで、空からしんやどうがをとること。</td><td>空をとんで、あぶないばしよのようすを見に行つてくれるロボット</td><td></td></tr></table>	どんな時に助けてくれる？	何ができる？	どんなロボット？	2段落	とどける人が足りないときでも、にもつをうけることができる。	ひとりですらうろをはしつて、人の家までにもつをは「かこ」。	にもつを家にとどけてくれるもの（ロボット）		どんな時に助けてくれる？	何ができる？	どんなロボット？	3段落	知りたいことがあるときに、すぐにしつもんすることができ。	人のしつもんを聞いて、答えたり、道案内をしたりすること。	水ぞくかんのようなしせつで、あんないをしてくれるロボット		どんな時に助けてくれる？	何ができる？	どんなロボット？	4段落	あぶないばしよに近づけないときに、ロボットがとっしやしんやどうがを見て、ようすを知ることができ。	ほかのものにつかないようにしながら、きめられはしよまでとんでいくこと、棒についているカメラで、空からしんやどうがをとること。	空をとんで、あぶないばしよのようすを見に行つてくれるロボット		○		〔知識・技能①〕 ワークシート・ノート ・共通や相違など情報と情報との関係について理解している。
どんな時に助けてくれる？	何ができる？	どんなロボット？	2段落																									
とどける人が足りないときでも、にもつをうけることができる。	ひとりですらうろをはしつて、人の家までにもつをは「かこ」。	にもつを家にとどけてくれるもの（ロボット）																										
どんな時に助けてくれる？	何ができる？	どんなロボット？	3段落																									
知りたいことがあるときに、すぐにしつもんすることができ。	人のしつもんを聞いて、答えたり、道案内をしたりすること。	水ぞくかんのようなしせつで、あんないをしてくれるロボット																										
どんな時に助けてくれる？	何ができる？	どんなロボット？	4段落																									
あぶないばしよに近づけないときに、ロボットがとっしやしんやどうがを見て、ようすを知ることができ。	ほかのものにつかないようにしながら、きめられはしよまでとんでいくこと、棒についているカメラで、空からしんやどうがをとること。	空をとんで、あぶないばしよのようすを見に行つてくれるロボット																										
8 （本時） 11	○教科書に紹介されているものの中で自分が一番あったらいいなと思うロボットについての感想を紹介カードに書く。（8、9時） ○紹介文を交流して、内容が伝わるのかを考える。（10時） ○修正点をもとに、紹介カードの清書を行う。（11時）	○		〔思考・判断・表現①〕 ワークシート・ノート ・「読むこと」において、文章の内容と自分の経験や体験とを結び付けて感想をもっている。 ○ 〔主体的に学習に取り組む態度①〕 ワークシート・ノート・児童の様子 ・進んで、文章の内容と自分の経験を結び付けて感想をもち、学習課題に沿って分かったことや考えたことを文章にまとめようとしている。																								
四	12	○学習を振り返る。																										

(1) 本時の目標

(2) 学習の展開

〔思考・判断・表現①〕
ワークシート・ノート
・「読むこと」において、文章の内容と自分の経験や体験とを結び付けて感想をもっている。

3 紹介カードを読み、ポイントを確認する。	□紹介カードを読み返して、紹介したいことが書けたかどうか、確かめましょう。 ○視点に沿って書いているか確認をする。 ◆一人で確認が難しい児童は、隣の友達と交換し、一緒に読み合うことで確認する。	
4 学習の振り返りをし、次時への見通しをもつ。	□次回は、紹介カードをよりよくするために、友達と読み合って、直していきましょう。 ○次時では、同じロボットを選んだ友達や、違うロボットを選んだ友達と読み合い、加筆修正をしていくことを伝え、児童の活動への意欲を高める。	

(3) 板書計画

問い②どんなときに、たすけてくれるの
でしょう。

2～4 段落の
各ロボットの
写真
(3枚)

問い①どんなロボットがあるのでしょ
う。

㊦ あったらいいなと思うロボットのし
ょうかいカードを書こう。

ロボット
さとう ともまさ 文

6 指導の実際

(1) 指導上の工夫

・環境づくり

並行読書ができるよう、図書館補助員と連携し、働くロボットについての本を教室に並べておいた。いつでも児童が手に取ることができ、興味関心につなげることができた。

また、学習の足跡となる掲示を残していった。文章から読み取れたことや写真から見付けたことを残しておき、児童の経験を残すことができるようにした。

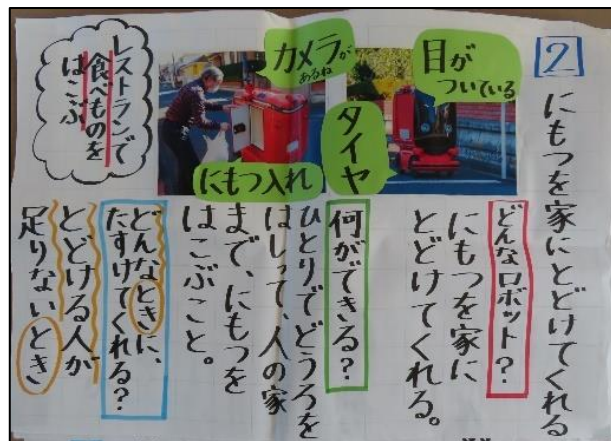


写真1 学習の足跡

・「考え聞かせ」の取組

単元の導入に、教科書の挿絵を用いた考え聞かせを行った。挿絵を見ながら「これは何に使われていると思う?」「どんなことをしていると思う?」など児童と対話をしながら「考え聞かせ」を行った。ただ説明的な文章を読むだけでなく、児童も楽しみながら学習に取り掛かることができ、興味をもつことができた。また、児童の反応も多くあり、児童の経験を引き出すことができたと考える。

・着目すべき語や文を理解するための視覚的支援

問いが2つある教材文であるため、1つめの問いと答えに赤、2つめのそれらには青などと視覚的に理解できる支援を行った。そのようにすることで、各段落が同じような構成で書かれていることにも気づき、説明的な文章の読み進め方を理解することができた。

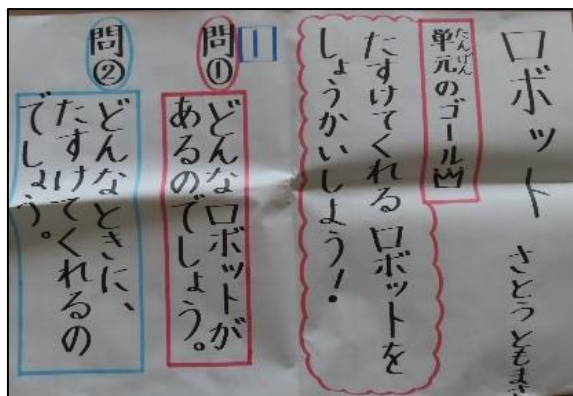


写真2 色分けによる視覚的支援

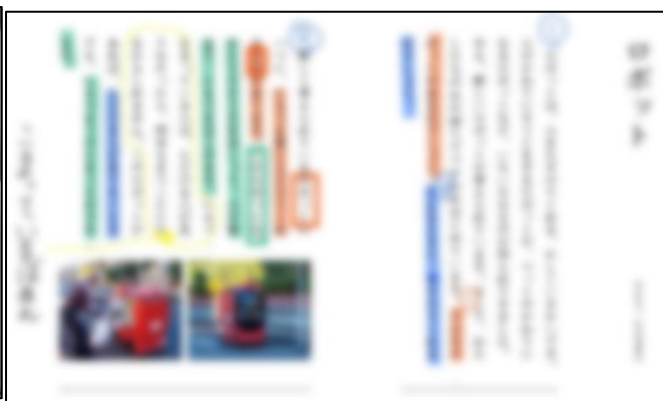


写真3 デジタル教科書による本文の提示

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

・既有の知識、経験の差があること

3種のロボットのうち、実際に見聞きしたことがあるものが少なかったため、動画や写真を用いて近い経験を想起できるようにした。また、その経験を教室掲示にも示すことで、考えの形成に取り組む際にも参考になるようにした。実際に教師がロボットを体験しに行った時の様子の写真やパンフレットを掲示し、知識の幅が広がるように手立てを行った。

・ワークシートの工夫と個別支援

形成された考えをワークシートに書きまとめる際、ヒントを載せたヒントシートを用意し、努力を要する児童への手立てとした。また、その裏に教材文の内容別に色分けしたものを印刷した。それらのシートでも記述が難しい場合に、今までの学習を振り返るよう声掛けを行ったり、児童同士で話し合い活動を行ったりし、考えが形成できるよう支援した。

思ったこと	考えたこと	自分がこまっていたこと たすけてほしいこと	文しょうから 分かる ロボットのこ	しょうがいしたい ロボット
書いてみよう。	ロボットにたいして、思ったことや考えたことを書いてみよう。	自分が こまっていたことや、えらんだロボットにたすけてもらいたかったことを思い出してみよう！	どんなことができて、どんなときにたすけてくれる？ ☆このロボットは…？ ☆問い②のこたえも たよりに考えてみよう！	どんなロボットかな？ ☆問い①のこたえも たよりに考えてみよう！

教科書の写真

すていぞー！ロボット！

写真4 ヒントシートの提示（表）



写真5 ヒントシートの提示（裏）
（写真4のヒントシートの裏面に、表と対応するように色分けした教材文を載せたもの）

7 評価の実際

（1）評価の具体

【思考・判断・表現①】は、以下の観点で感想をもつことができているかをワークシートの記述から評価した。すべての観点において記述できており、自分の感想や考えをもつことができていた児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

- ① どんなロボットか（文章の内容理解）
- ② 学習してロボットについて分かったこと（文章の内容理解）
- ③ 自分の知っていることや経験（既知の知識や経験）
- ④ 自分の経験と結び付けて深めたことと感想（解釈・感想）

なお、自分の経験に基づいて既習内容と結び付け、解釈したことに基づいて感想を具体的にもつことができていた児童や文章の全体像を捉え、感想をもつことができていた児童、疑問点や更に知りたい点を書くことができていた児童を「十分満足できる」状況（A）とした。

一方で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の経験や既知の知識と結び付けて解釈し感想を記述できなかった児童は「努力を要する」状況（C）とした。

【「おおむね満足できる」状況（B）と判断した児童のワークシート例】

思ったこと	考えたこと	自分がこまっていたこと たすけてほしいこと	文しょうから 分かる ロボットのこ	しょうがいしたい ロボット
書いてみよう。	ロボットにたいして、思ったことや考えたことを書いてみよう。	自分が こまっていたことや、えらんだロボットにたすけてもらいたかったことを思い出してみよう！	どんなことができて、どんなときにたすけてくれる？ ☆このロボットは…？ ☆問い②のこたえも たよりに考えてみよう！	どんなロボットかな？ ☆問い①のこたえも たよりに考えてみよう！

教科書の写真

すていぞー！ロボット！

自分の経験に基づいて既習内容と結び付けて解釈したこと

文章に対しての自分の思い

実際に児童が経験した事柄

文章を読んで理解したこと

【「努力を要する」状況（C）から「十分満足できる」状況（A）に評価を見直した成果物の例】
次の写真は、A児が第8、9時に書きまとめた紹介カードである。

自分の経験に基づいて
既習内容と結び付けて
解釈したこと

文章に対しての
自分の思い

思ったことや 考えたこと	自分がこまったことや たすけてほしいこと	ロボットができること	しょうかいしたい ロボット
先生が一人だからこの ロボットがあればすぐに たすけてくれるからあった らいいなと思いましたが。	先生が一人だからこの ロボットがあればすぐに たすけてくれるからあった らいいなと思いましたが。	体いくのあやのしかたを おしえてくれるロボット です。てつぼうでもマッ おなんでもできるロボット です。	体いくできたかったらおしえてく れるロボットをしょうか らいます。

実際に児童が経験した事柄

上記のままでは、考えの形成における「文章を読んで理解したこと」という部分が表出されていないことになる。また、少し文章に対する自分の思いが弱いため、「努力を要する」状況（C）であるという判断とした。そこで、次時に、足りていないと判断した部分についてA児に問いかけ、以下のように児童が修正を行った。

文章を読んで理解したこと

文章に対しての
自分の思いの
聞き取り

どうしていいかとロボットをなんでも新しいロボットが考案して
いてくれるロボットを作りたいと思っています。

思ったことや 考えたこと	自分がこまったことや たすけてほしいこと	ロボットができること	しょうかいしたい ロボット
先生が一人だからこの ロボットがあればすぐに たすけてくれるからあった らいいなと思いましたが。	先生が一人だからこの ロボットがあればすぐに たすけてくれるからあった らいいなと思いましたが。	体いくのあやのしかたを おしえてくれるロボット です。てつぼうでもマッ おなんでもできるロボット です。	体いくできたかったらおしえてく れるロボットをしょうか らいます。

A児は、文章の中の筆者が呼びかける文に対し、自分の困り感からあったらいいなと思うロボットを紹介するカードを作成した。また、文章に対する自分の思いとして、どうしていいなと思ったのか問うと、「今回は自分が体育で困ったことをもとに考えたが、きっと自分だけではなくいろんな人が困っていて助けてほしいと思っている人はたくさんいると思うし、このロボットがあれば、楽しくみんなが体育をできるのではないかなと思ったから。」という答えが返ってきた。そのため、文章を読んで理解したことから自分の経験と結び付けて解釈し、理解を深めた上で感想をもっていると判断し、「十分満足できる」状況（A）と評価を見直した。

このように、低学年段階の児童は、自分の思いや考えを十分に書いて表現しきれないことがあるため、成果物だけで判断せず、児童の思考を測るために、適宜教師からの問いかけをする必要があることを改めて感じた。

(2) 児童の評価

「十分満足できる」状況 (A)	23%
「おおむね満足できる」状況 (B)	69%
「努力を要する」状況 (C)	8%

8 成果と課題

(1) 成果

単元の導入に「考え聞かせ」を取り入れることで、児童が絵や文章を結び付けて考えをもつようになった。また、自分の経験や既存の知識を引き出すことができた。実際に、ペットの代わりになるロボットや、レストランで使われているロボットの動画を見せることで教材文をより身近に感じることができるようにして、児童の経験を想起させることができた。

(2) 課題

ワークシートを工夫し、観点を分けて書けるようにしたが、その観点が難しかった。「文章の内容と自分の経験を結び付けて解釈したこと」と「文章に対しての思い」を児童が理解できる言葉に落とし込むのが難しく、同じ部分にそれらを書くワークシートになってしまった。そのため、児童も記述するのが難しかった。どの評価もそうだが、指導者が「考えの形成」についての理解を深め、どのような内容が児童から出てきてほしいのかイメージをもつことが大切だと改めて感じた。また、A評価とB評価の違いを明確にもてていなかったことと、B、C評価の児童を引き上げるための手立てが不十分だったことも課題として挙げられる。ワークシートの作成も、児童を引き上げるための手立ても、教師自身が学習指導要領を読み込み、本単元でどのような力を付けなければならないのかをもう一度よく考えることが一番大切だということが分かった。

B、C評価の児童に対しての手立てとしては、児童が何を今までに経験し、どのような知識をもって学習に取り組んでいるのか児童の実態把握に努めること、児童の発言、成果物等を見たときに「考えの形成」におけるどの部分を表出させることができているのかを汲み取って指導を行うことなどの手立てが考えられる。児童の経験が表出されていなければ、「それはどうしてそう思ったのか。」「何をしたときにそう考えたのか。」など聞き取りを行ったり、児童同士でそのような交流をしたりして経験を想起させる活動を仕組むことが考えられる。文章に対する自分の思いになっていない児童に対しては、一度文章に戻るよう指導を行い、それに対して思ったことを表すことができるように指導することが考えられる。

また、特にC評価の児童に対しての手立てとして、まず、文や文章、言葉自体の意味を理解することに課題が見られることがある。挿絵や動画などを使うことで文章の内容を多面的に示し、理解できるよう手立てを講じることや、言葉を動作化することなどを通して文章の内容理解に努めたい。次に、自分の思いや経験を言語化することに課題もあると考えられる。その課題に対する手立てとして、文例を示したり、学習を進めていく中で経験をメモ、発言したことを学習端末などで録画することなどを通して、記録したりしていくことが重要だと考えた。

(3) 今後に向けて

今後は、課題点として挙げたことを様々な教科や教材で取り組んでいきたい。一人でするのではなく、周りの人も巻き込みながら進めていきたいと思った。国語科においては、教材文から児童がどのような経験や知識を想起しながら学習を進めるのか考えた授業づくりをしていきたい。そして、それらをどのように本文と結び付け、解釈していくのかイメージし、児童が教材に対してどのような思いをもつことができるのかを具体的に想定していきたいと思った。そうする中で、「考えの形成」に向いている教材とそうでない教材があると感じたため、教材の特徴や児童の実態をよく踏まえながら学習に取り組みたい。